

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（1年）

全体の概要	
国語	全体の正答率は県平均をやや下回っている。領域別に見ると「書く」に関しては県平均を大きく下回っている。「言語事項」の中の「漢字の書き」も県平均を大きく下回っている。書くこと、漢字の書きに関して苦手意識を持つ生徒が多いようである。

分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
聞話 くす	「話す・聞く」に関しては、正答率では県平均をやや下回っている。	➡	「話す・聞く」活動を授業でも多く取り入れ、定期テストでも聞き取り問題を実施していきたい。
書 く	「書く」ことに関しては県平均を大きく下回っており、書くことに苦手意識を持つ生徒が多いようである。	➡	様々な文章を書く内容を授業でも多く取り入れ、書くことへの抵抗感を減らしていきたい。また、特に自分の考えを書くということに多く取り組ませたい。
読 む	「読む」ことに関しては、正答率は県平均をやや下回っている。しかし、文章の内容を読み取った上で自分の考えを書くという問いについては正答率が低くなっている。	➡	授業でも繰り返し文章を読む習慣を身に付けさせ、読む力を向上させたい。そして、内容を読み理解した上で自分の考えを書くことの力を伸ばしていきたい。
言語 事項	漢字の読み、語句に関する知識は県平均とほぼ同じである。しかし、漢字の書きに関しては県平均を大きく下回っている。	➡	引き続き毎日の漢字の課題と小テストを継続していく。また、小学生の頃に習った漢字にも立ち返らせ力の向上を目指したい。

全体の概要	
数学	全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。観点別に県平均と比較しても「考え方」「技能」「知識・理解」の三つの観点かほぼ同程度である。また、内容・領域別に比較したときも、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全てにおいて、県平均とほぼ同じである。

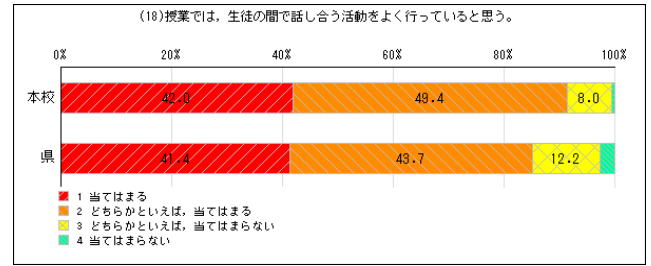
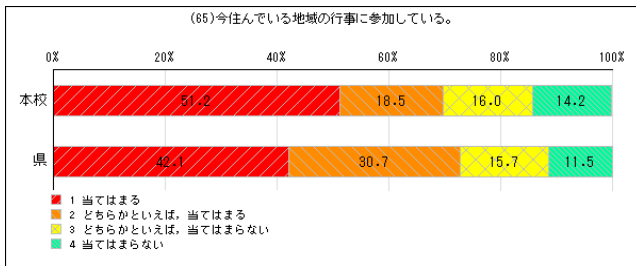
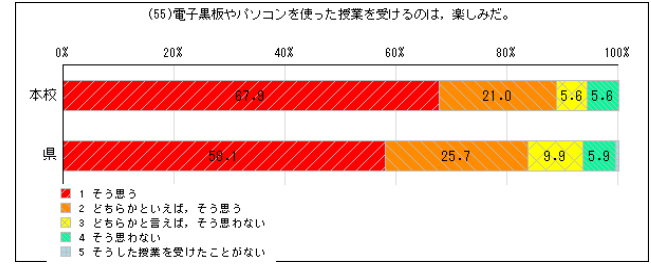
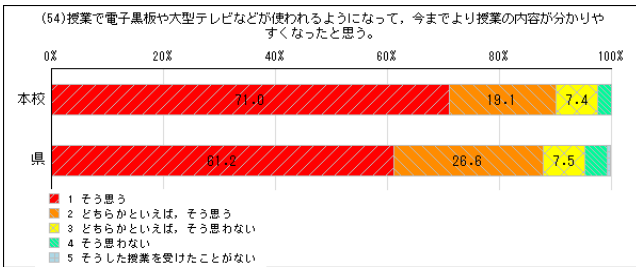
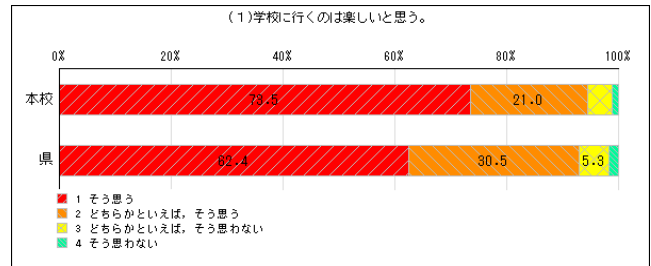
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
知識・ 理解	全体としては県平均とほぼ同じ正答率となっているが、点対称に関する問題の正答率が低かった。	➡	中学校1年の内容でも点対象について扱うので、丁寧に復習をしながら進めていく。
技能	全体としては県平均とほぼ同じ正答率となっている。割合に関する問題は、県の正答率を大きく上回っているが、立体の体積、関数の文字を使った立式については、大きく下回る結果であった。	➡	文字式への苦手意識を持たせないように、ことばの式と比較しながら、その利便性を実感させる。関数では、比例・反比例の復習を確実にを行う。
考 え 方	全体的には県平均とほぼ同じ正答率となっている。比を活用する問題で出題内容によって大きく結果に差が出ている。	➡	文章から題意を正しく読み取る力を育成していく取り組みが必要である。

# 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（1年）

## 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は73.5%で県平均の62.4%を大きく上回る。どちらかと言えばあてはまると答えた生徒を含めると94.5%となり、ほとんどの生徒が学校での生活については好意的に感じているのがわかる。学習に関しては、特に電子黒板やパソコンなどの機器を使った授業がわかりやすいとか楽しみだと答えている生徒の割合が県平均よりも高い。市全体でICT活用の取り組みを数年前から行ってきた成果であると考えられる。

## 【 数値が特に高かった項目 】



## 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

休日の家庭学習時間が1時間以上と答えた生徒は県平均よりも12.5%少ない。また、平日についても県平均より9.1%少なく、家庭学習の充実が今後の課題であることは明確である。一方、平日のゲームに当てる時間が1時間以上と答えた生徒は県平均よりも8.9%多く、平日の携帯電話利用が1時間以上という割合は県平均よりも5.9%多い。以上の結果から、携帯電話やゲームをする時間が長くなり、家庭学習に十分な時間を確保できていない生徒が少なからず見られる。今後は、これらの結果を学年通信などを通して家庭にも還元し、学校と家庭の協力体制を強化したい。

## 【 数値が特に低かった項目 】

